

参加費  
無料

# 草津・ 栗生楽泉園

国立療養所

くりうらくせんえん

## ハンセン病 共生と隔離の歴史を 学ぶ旅

《第1回》10月16日(日)

《第2回》11月23日(水・祝)



平成28年度  
群馬大学地域貢献事業

群馬大学  
GUNMA UNIVERSITY

### 行程

- 8:00 高崎駅(東口)出発
- 10:00 草津温泉到着
- ▼ 草津温泉見学
- 12:20 昼食
- 12:50 草津温泉出発
- 13:00 栗生楽泉園到着
- ▼ 重監房資料館見学
- 15:00 園内見学
- 16:30 栗生楽泉園出発
- 18:30 高崎駅到着、解散



# 草津湯之沢集落と栗生楽泉園

明治時代中期に草津町の東のはずれに形成された湯之沢集落は、全国で唯一、公に認められたハンセン患者の自治区でした。そこでは、1916(大正5)年から、イギリス人宣教師コンウォール・リー女史らにより救済事業が行われ、多くのハンセン病患者が暮らしていました。

しかし、1932(昭和7)年、ハンセン病患者の隔離を徹底するため、栗生楽泉園が開設されました。1941(昭和16)年、遂に湯之沢集落は解散に追い込まれ、患者は同園に収容されました。

1996(平成8)年、らい予防法が廃止され、隔離政策に終止符が打たれました。本年5月現在、栗生楽泉園の入所者は85名、平均年齢は86.4歳、ハンセン病は完治しています。しかし、ハンセン病に対する偏見と差別は、いまなお根強く残っています。入所者は、すでに高齢であり、長い間、家族や社会との交流が断たれていたこともあり、社会復帰が難しい状況です。



**納骨堂**

遺族はなぜ遺骨の引き取りを拒むのか

**墮胎児の碑**

“命”に込められた思い

**社会交流会館**

栗生楽泉園の歴史と入所者の暮らしぶりを伝える展示

**重監房資料館**

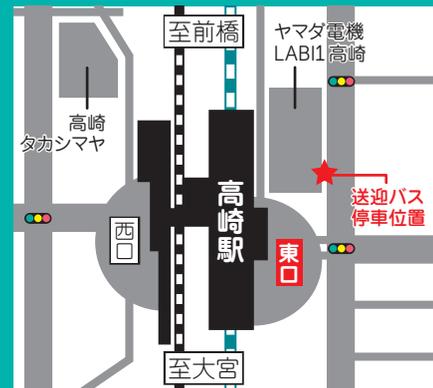
重監房実寸大再現展示

**リーかあさま記念館**

救済に尽くした英国人宣教師コンウォール・リー女史

## 草津・栗生楽泉園 ハンセン病 共生と隔離の歴史を学ぶ旅

開催日	《第1回》10月16日(日) 《第2回》11月23日(水・祝)
定員	30名(先着順)
参加費	無料
主催	群馬大学社会情報学部 (実施責任者 社会情報学部教授 西村 淑子)
お問い合わせ先 (お申し込み先)	株式会社 klar fahrt (クラールファート) 〒371-0805 群馬県前橋市南町2-65-1 (株)klar 内 TEL:027-260-9525 FAX:027-260-9322 E-mail:fahrt1@klar.co.jp
お申込み方法	電話またはE-mailで 開催日の1週間前までにお申込みください
協力	国立療養所栗生楽泉園、同入所者自治会、 草津町、草津聖バルナバ教会



- ※出発の10分前までに送迎バス停車位置(LAB11高崎東側道路沿い)にお越しください
- ※天候等により当日突然中止になることがあります
- ※小学生以下は保護者の同伴が必要です
- ※各自、防寒着・雨具・弁当・飲み物などを用意してください
- ※足もとの悪い場所を徒歩で移動します。歩きやすい靴・服装でご参加ください
- ※栗生楽泉園内では、入所者のプライバシーを尊重し、くれぐれも入所者に失礼のないよう行動してください